2018年度

事 業 報 告 書

2018年4月 1日から
2019年3月31日まで

公益財団法人 日本科学技術振興財団

目　次

【事業活動】

１．2018 年度の事業概況 1

２．グラフで見る 2018 年度の事業.. 3

３．事業の状況 4

Ⅰ．［公益目的事業 1］　科学技術館の運営事業 4

Ⅱ．［公益目的事業２］　他館の運営管理事業...................................... 7

Ⅲ．［公益目的事業３］　他館に対する活動支援事業.............................. 10

Ⅳ．［公益目的事業４］　科学技術系人材の育成事業.............................. 11

Ⅴ．［公益目的事業５］　科学技術の普及啓発事業................................ 12

Ⅵ．［公益目的事業６］　科学技術振興に関する調査研究事業、
Ⅶ．［公益目的事業７］　科学技術の研究開発とその促進事業...................... 13

Ⅷ．［収益事業１］　情報システムの設計開発と運用サービス事業.................. 14

Ⅸ．［収益事業２］　科学技術館施設の利用促進事業.............................. 15

【総合活動】

１．当財団の組織 16

２．代表理事及び業務執行理事の業務分担.. 16

３．会議の開催 17

４．その他 18

【事業活動】

１．2018 年度の事業概況

Ⅰ.[公益目的事業1]　科学技術館の運営事業

１．入館者状況

入館者数は約53万3千人、対前年度比8.7%の減少。

２．展示の新設

２階「ものづくりの部屋」展示室内にJKA補助事業により「北の丸製作所」を新設し3月23日にオープンした。

３．特別展・イベントの開催

(1)企業・団体の協力を得て実験・工作教室等のイベントを開催

「日立サイエンスセミナー」「生物実験教室」「理研DAY」「夢化学－21」「日本IBM TryScience実験教室」「ワクエコ・カーモデラー教室」等。

(2)共催イベント

「東京パズルデー2018in科学技術館」： 11月3日、4日（日本パズル協会）

ものづくり体験「たたら製鉄実験」：11月11日（日本鉄鋼連盟）

「ロボコン体験ミュージアム」：8月4日～26日（ＮＨＫエンタープライズ）

「ロボコン体験ミュージアム シーズン2」：11月17日～12月9日（ＮＨＫエンタープライズ）

(3)春の特別展

「知れば知るほど深くなる!?もっと知りたい!海のこと」：3月21日～5月6日（(公財)日本海事科学振興財団助成事業）

４．巡回展示物の貸出し

「ラ・ビレット展」「感覚・体感フィールド」「スポーツを科学する」「科学捜査展」「はかるのヒ・ミ・ツ展」「究める！マグネット展」「科学捜査展 ＃SEASON2」「マスレチック・ランド」等を全国13か所の科学館、諸施設に貸し出し、各館のイベントとして開催。

５．サイエンス友の会

科学技術館で実施する工作教室や実験教室、企業などの施設見学会等を計333回開催。

小学3年生以上の正会員と家族会員の延べ6,234人が参加。

６．実験プログラム開発など

(1)館外でのイベント向けに「分光の基本と応用」「お天気サイエンスショー」「空気のパワーでふしぎ☆実験！」のプログラムを開発し、科学機器専門展示会等で実施し、300名の参加があった。

(2)沖縄県内の地域で科学コミュニケーションの裾野を広げるため、児童館などでのイベントの開催や指導員を対象にした講演会、指導方法の研修会などを開催した。

Ⅱ.[公益目的事業2]　他館の運営管理事業

１．所沢航空発祥記念館の運営（埼玉県委託事業）

(1)春、夏、秋に特別展を開催

「空にトキメキ展」、開館25周年特別展「エアレース世界チャンピオン室屋義秀～極限からメッセージ」「青木勝写真展ＹＳ－11名機伝説」

(2)大型映像館の運営

航空分野を中心に広く来場者の興味を惹く上映コンテンツを選択し12作品を上映した。

「アマゾン・アドベンチャー生物進化のひみつ」「サムライパイロット世界へ室屋義秀～極限の闘い」「HAYABUSA2 ～RETURN TO THE UNIVERSE」「ティラノサウルス～最強恐竜 進化の謎」等

(3)大型映像館上映作品に関連するイベントを開催

「さかなクン ギョギョッとお魚教室」「室屋義秀トークショー」「ディノアライブ」

(4)累計入館者650万人達成

2019年2月16日に開館以来650万人目の来館者を迎え、記念式典を開催した。

２．青森県立三沢航空科学館（青森県委託事業）

特別展「光のラビリンス～Art in Wonderland 」：7月7日～9月24日開催

Ⅲ.[公益目的事業3] 他館に対する活動支援事業

１．プレアデス導入館に関する保守メンテナンス事業

２．日立シビックセンター天球劇場映像生成ＰＣシステム更新

３．日立シビックセンター科学館のリニューアルの在り方基本構想・計画(案)基礎資料作成業務

((公財)日立市民科学文化財団委託事業)

Ⅳ.[公益目的事業4] 科学技術系人材の育成事業

１．青少年のための科学の祭典2018

(1)全国大会：7月28、29日に科学技術館で開催。入場者数11,880人、出展数68。
(2)地方大会：北海道から沖縄まで73会場で開催。

２．国際科学オリンピック

(1)日本生物学オリンピック2018 ：参加者4,189人の中から代表候補者15人を選抜し、さらに日本代表4人を決定した。
(2)第29回国際生物学オリンピック(イラン大会)：日本代表4人は銀2、銅2を獲得。世界71ヶ国が参加。

３．その他

(1)教員のための理科実験指導育成講座
参加延べ136人((公財)東京応化科学技術振興財団助成事業)
(2)少年少女創造性育成事業
ワークショップを科学技術館、佐賀県で計2回開催。((公財)新技術開発財団委託事業)
(3)ボーイングSTEMイベントの開催
シアトル航空博物館サイエンスショー、ワークショップを科学技術館等5会場で開催。
(ボーイング社助成事業)

Ⅴ.[公益目的事業5] 科学技術の普及啓発事業

１．第60回科学技術映像祭(応募は24機関から42作品が出品)

(1)内閣総理大臣賞1作品、文部科学大臣賞3作品、部門優秀賞6作品、特別奨励賞2作品、新技術振興渡辺記念会理事長賞１作品、科学技術館館長賞1作品の表彰を決定した。

２．放射線・エネルギー等に関する理解促進活動

(1)放射線に関する教職員セミナー及び出前授業を全国の小・中・高等学校で165回実施し10,659人が受講した。(文部科学省委託事業)
(2)中学校理科新学習指導要領による「放射線」教育を実施する教師を支援するために放射線教育支援Webサイト「らでぃ」を運用し、教員研修や放射線出前授業を実施した。
(3)「青少年のための科学の祭典」全国大会及び地方大会にエネルギー・放射線実験ブースを出展した。
(4)放射線教材コンテスト・発表会を実施し、最優秀賞1作品、優秀賞1作品、特別賞3作品の表彰を決定した。

Ⅵ.[公益目的事業6] 科学技術振興に関する調査研究事業
Ⅶ.[公益目的事業7] 科学技術の研究開発とその促進事業

１．科学技術館ならではの手法の確立を目指して、映像技術を使った教育プログラムと展示を試行し、その効果を調査して有効性を確認した。((一財) 新技術振興渡辺記念会科学技術調査研究助成)
２．広報活動については、「JSF Today」(季刊)および科学技術館メールマガジン(配信数11,079人)の発行、twitterによる情報発信(フォローワー数2,795人)を実施した。

Ⅷ.[収益事業1] 情報システムの設計開発と運用サービス事業

１．情報システムの設計開発

(1)データベース技術やネットワーク技術を応用した情報システムの設計開発
会計検査院、(学)産業能率大学、(株)ニッセイコム、(株)イセトー、(株)片平エンジニアリング
(国研) 科学技術振興機構

２．情報システムの運用サービス事業

(1)LMS(Learning Management System)の運用業務	：中外製薬(株)、オムロン(株)
(2)通信教育Web受講申込システムの運用業務	：(学)産業能率大学
	：(職)日本技能教育開発センター
(3)統計システムのデータ登録・運用業務	：(一社)電子情報技術産業協会
(4)会計決算システム運用業務	：(学)産業能率大学
(5)成績報告サービス	：通信教育団体
(6)金融系Webシステム運用業務	：(株)イセトー

Ⅸ.[収益事業2] 科学技術館施設の利用促進事業

1階の展示・イベントホールを販売会、技術展、製品発表会、イベントに、また地階のサイエンスホール、および事務棟の会議室をイベント、講演会、セミナー、会議に貸出す事業を行っている。

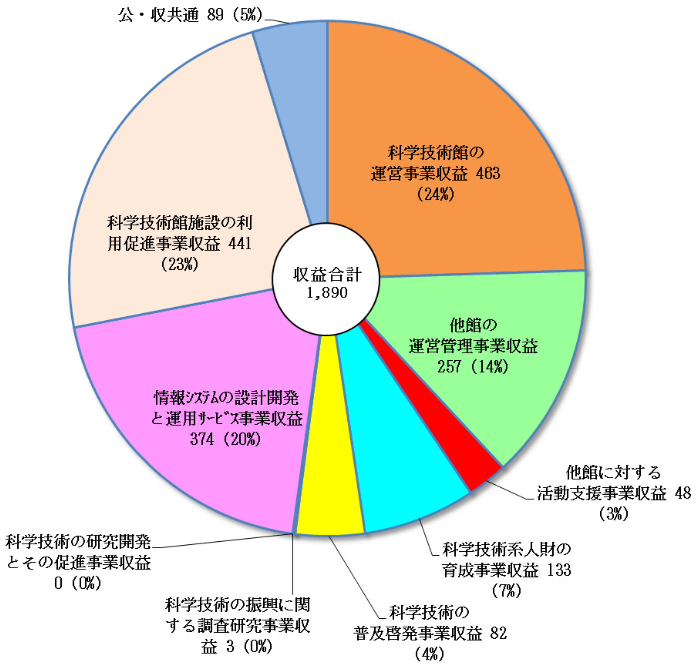
【収益事業１】、【収益事業２】は、公益目的事業実施の基盤となる重要な事業である。

２. グラフで見る 2018 年度の事業

(1) 収益

2018年度収益　（単位：百万円）

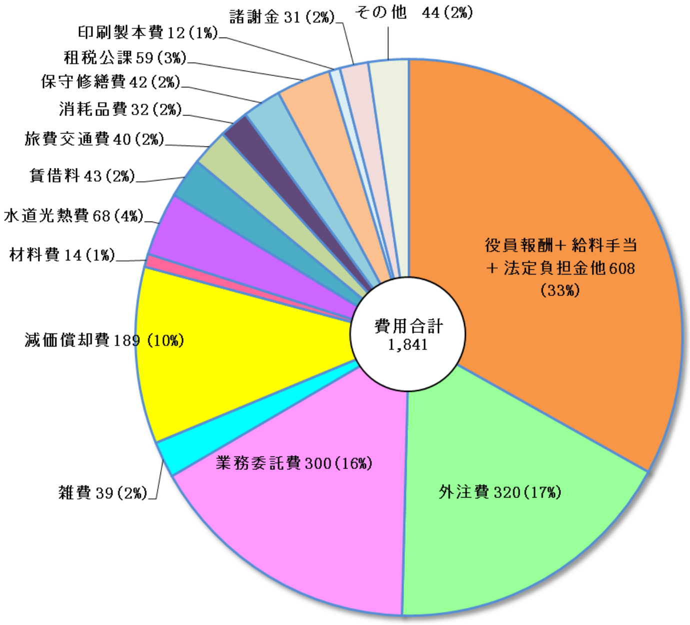
区分	科　目	決算	予算
公1	科学技術館の運営事業収益	463	479
公2	他館の運営管理事業収益	257	258
公3	他館に対する活動支援事業収益	48	98
公4	科学技術系人財の育成事業収益	133	123
公5	科学技術の普及啓発事業収益	82	210
公6	科学技術の振興に関する調査研究事業収益	3	3
公7	科学技術の研究開発とその促進事業収益	0	0
収1	情報システムの設計開発と運用サービス事業収益	374	330
収2	科学技術館施設の利用促進事業収益	441	423
	公･収共通	89	66
合計		1,890	1,989



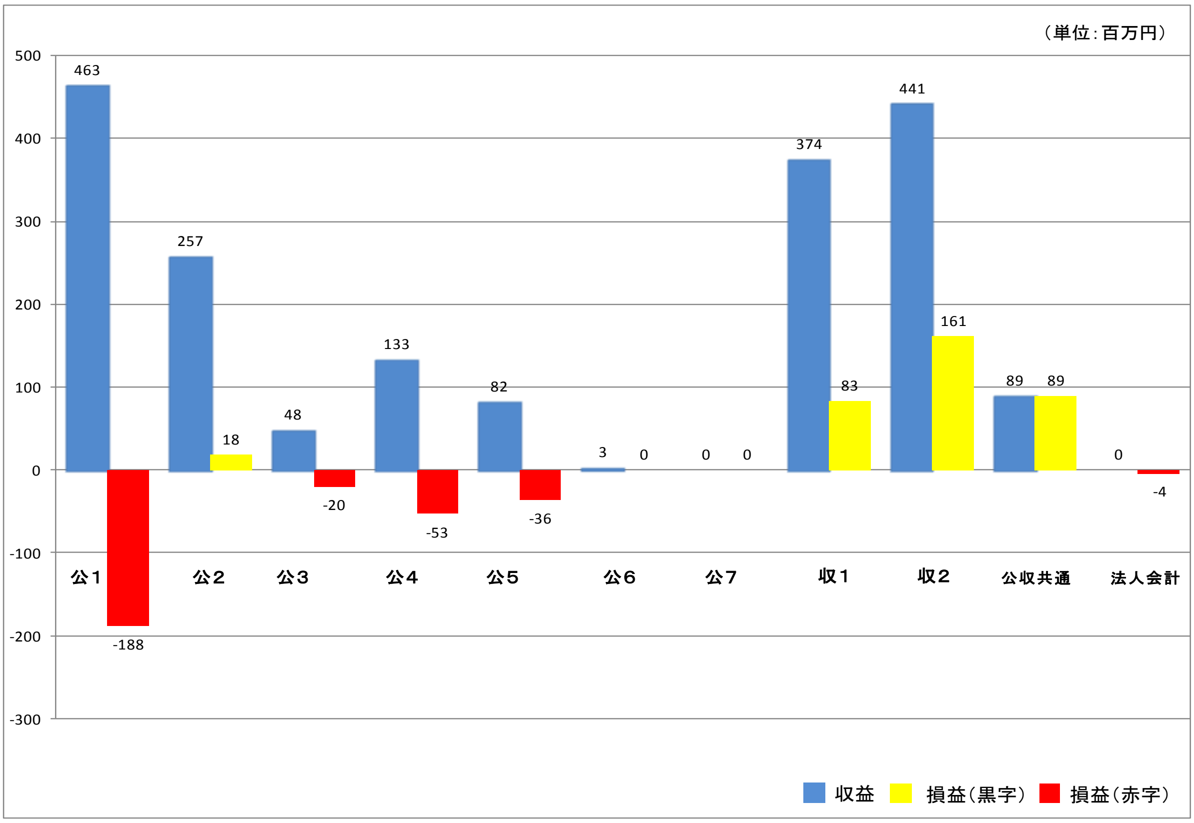
(2) 費用(事業費＋管理費)

2018年度費用（事業費+管理費）（単位：百万円

	科目	決算	予算
①	役員報酬＋給料手当＋法定負担金他	608	635
②	外注費	320	314
③	業務委託費	300	301
④	雑費	39	13
⑤	減価償却費	189	183
⑥	材料費	14	45
⑦	水道光熱費	68	64
⑧	賃借料	43	48
⑨	旅費交通費	40	68
⑩	消耗品費	32	36
⑪	保守修繕費	42	91
⑫	租税公課	59	62
⑬	印刷製本費	12	38
⑭	諸謝金	31	29
⑮	その他	44	62
	合計	1,841	1,989



(3) 事業区分別の収益と損益



３．事業の状況

Ⅰ．［公益目的事業１］　科学技術館の運営事業

次代を担う青少年を中心に、実際に「見て」「触れて」「試す」ことで楽しみながら理解できる体験型展示と多くの実験ショー・ワークショップを開催し、常設展示・特別展とともに、好奇心・探究心・創造性を育みつつ科学技術・産業技術の振興と理解増進に繋がる情報・知識の普及啓発活動を展開した。また、開館以来の事業である１年制の会員組織「サイエンス友の会」による工作教室・実験教室等をはじめ、ステークホルダーと連携した各種教室等を開催した。

１．科学技術館の運営

(1) 入館者状況

当年度の入館者数は約 53 万 3 千人となり、対前年度比−8.7％と減少した。

＜入館者状況比較＞

	2018 年度(人)	2017 年度(人)	2018/2017(%)
4 月	30,981	37,289	83.1%
5 月	31,984	36,945	86.6%
6 月	32,459	34,392	94.4%
7 月	33,005	36,422	90.6%
8 月	58,241	67,754	86.0%
9 月	28,253	24,024	117.6%
10 月	34,999	41,613	84.1%
11 月	62,282	62,224	100.1%
12 月	56,249	63,359	88.8%
1 月	57,246	64,691	88.5%
2 月	64,299	71,697	89.7%
3 月	43,364	43,906	98.8%
合計	533,362	584,316	91.3%

(2) 実験演示

9 つの展示室に設けられた実験・演示コーナーにおいて、休館日を除く毎日、ワークショップ・実験ショー等を開催した。

(3) 学芸活動

①体験学習・職場訪問の受入

全国からの中学校と高等学校 1 校の職場体験、体験学習等を受け入れた。

②インターンシップの受入

8 月に産業能率大学の学生を受け入れ、館内イベント運営等にあたった。

7 月から 9 月に国際インターンシップとして仏国 ESSEC(エセック経済商科大学院大学)より学生を受け入れ、英語による展示室ガイダンスシート作成等にあたった。

２．サイエンス友の会の活動

電子工作や木工工作教室、化学や生物をテーマとする実験教室、パソコンの使い方を学ぶパソコン教室、北の丸公園など屋外での自然観察教室、企業の協力による施設見学会、STEAM 教育を導入した教室や、中学生以上を対象とした研究者等による専門教育など、各種プログラムを 1 年間にわたって計 333 回し、小学 3 年生以上の正会員と家族会員の延べ 6,234 人が参加した。

３．特別展・イベントの開催

(1) 社会貢献事業に関心の高い企業や団体の協力を得て教室やイベント等を開催

1)セメント協会:「セメントで手形をつくろう」

2)一般財団法人石炭エネルギーセンター：「夏休み石炭教室」

3)中外製薬株式会社：「生物実験教室」

4)日本アイ・ビー・エム株式会社：「日本 IBM TryScience 実験教室」

5)日本カーモデラー協会及び一般社団法人日本自動車工業会：「ワクエコ・カーモデラー教室」

6)日本鉱業協会：「Metal Factory 夏休みプログラム」

7)株式会社日立製作所「日立サイエンスセミナー」

8)プラスチック循環利用協会：「親子 de わくわくサイエンス プラスチックはスゴイ！」

9)メルク株式会社：「ライフサイエンスってなんだろう？実験してみよう！」

10)「夢･化学-21」委員会：「なぜなに？かがく実験教室」

11)国立研究開発法人理化学研究所：「理研ＤＡＹ」

⑵ 共催イベントの開催

1)日本パズル協会

「東京パズルデー2018 in 科学技術館」 11 月 3 日、4 日

2)日本鉄鋼連盟

ものづくり体験「たたら製鉄実験」 11 月 11 日

※サイエンス友の会会員を対象に開催されたイベントの様子を一般公開。

3)ＮＨＫエンタープライズ

「ロボコン体験ミュージアム」 8 月 4 日～26 日

「ロボコン体験ミュージアム　シーズン 2」 11 月 17 日～12 月 9 日

⑶ 春特別展の開催

1)公益財団法人日本財団助成事業

「光を学ぼう」　3 月 25 日～3 月月 30 日

※光をテーマとした展示物を制作し、春休みミニイベントを開催。

2) 公益財団法人 日本海事科学振興財団助成事業

「知れば知るほど深くなる！？もっと知りたい！海のこと」 3 月 21 日～5 月 6 日

※船の科学館「ミュージアムサポート」として開催した。

４．アウトリーチ活動

⑴ 巡回展示物の貸出し

「ラ・ビレット展」、「感覚・体感フィールド」、「スポーツを科学する」、「科学捜査展」、「はかるのヒ・ミ・ツ展」、「究める！マグネット展」、「科学捜査展 ＃SEASON2」、「マスレチック・ランド」等全国 13 か所の科学館を始めとする諸施設に貸し出し、各館のイベントとして開催した。

５．展示の新設、更新、実験体験プログラム開発など

⑴ 展示室新設

JKA 補助事業として、新展示コーナー「北の丸製作所」を 2 階 E 室「ものづくりの部屋」展示室

内に3月23日にオープンした。

⑵ 実験・工作プログラム開発

館外でのイベント向けプログラムとして「分光の基本と応用」、「お天気サイエンスショー」、「空気のパワーでふしぎ☆実験！」などを、ステークホルダーとの連携もしくは、館オリジナルとして開発し、JASIS2018（分析・科学機器専門展示会：幕張メッセ）などで実施した。これらのイベントには延べ約300名の参加があった。

⑶ 子供科学技術人材育成事業

沖縄県内の地域で科学コミュニケーションの裾野を広げるため、児童館や学童施設でのイベントの開催や、指導員を対象にした講演会、指導方法の研修会を開催。その際に使用される実験・工作プログラム「自在バランサー」を開発した。

Ⅱ．［公益目的事業２］　他館の運営管理事業

科学技術館の運営経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設の運営を行うことにより、科学知識の普及啓発に貢献した。

１．所沢航空発祥記念館の運営　（埼玉県委託事業）

常設展示館及び大型映像館の運営、特別展・公開講座・工作教室等の開催などを通して、航空関係の知識の理解増進、並びに航空分野への興味関心の喚起につながる活動を行った。

⑴ 展示館の運営

安全を最も優先とする運営基本原則のもと、日常の入館者対応、展示解説・実演、支援・サービス等を行なうとともに、展示物の適切な保守・管理を行うことで、滞りない館運営を開催した。

⑵ 大型映像館の運営

所沢航空発祥記念館の特長のひとつである大型映像館においては、航空分野を中心に広く来場者の興味を惹く上映コンテンツを選択し、年間を通じて多彩かつ多様な作品を上映した。

①第一期（春季）上映

「アマゾン・アドベンチャー　～生物進化のひみつ」　：2018年4月1日 ～ 7月1日
「かいけつゾロリ　～まもるぜ！きょうりゅうのたまご」　：4月21日 ～ 5月6日

②第二期（夏季）上映

「サムライパイロット世界へ　～室屋義秀･極限の闘い」　：7月3日 ～ 9月30日
「HAYASBUA２　～RETURN TO THE UNIVERSE」　：6月26日 ～ 7月13日
「クレヨンしんちゃん　～星空と学校の七不思議だゾ！」　：7月14日 ～ 9月1日

③第三期（秋季）上映

「銀河鉄道の夜」　：10月2日 ～ 12月28日
「大宇宙へ翔ける　～油井亀美也とJAXA、新しい時代へ」　：11月17日 ～ 12月2日

④第四期（冬季）上映

「ティラノサウルス　～最強恐竜　進化の謎」　：2019年1月2日 ～ 3月31日
「星の王子さま」　：3月1日 ～ 3月31日

⑤2019年新春特別上映

「くまのがっこう～　ジャッキーのおほしさま」　：1月2日、3日

⑥第59回科学技術映像祭入選作品上映

「ディープオーシャン　～超深海　地球最深への挑戦」　：9月15・16・17日
「大ピラミッド　～発見！謎の巨大空間」　：9月22・23・24日

⑶ 特別展・イベントの開催

館設立趣旨に則り、常設展示を補完する適時性のあるテーマに基いた特別展・イベントを開催することで、来館動機を増大するとともに広報の機会として活用し、館の周知・認知の向上を図った。

①特別展

1)「空にトキメキ展」　：2017年12月2日 ～ 2018年4月8日
2) 開館25周年記念特別展　：7月24日 ～ 9月9日
「エアレース世界チャンピオン室屋義秀
～極限からのメッセージ～」
3) 写真展「青木勝　ＹＳ－１１名機伝説2018」　：10月13日～12月2日

②大型映像館作品連動イベントの開催

1)「さかなクン　イラスト展」　：2018年6月9日 ～ 7月8日
2)「さかなクン　ギョギョッとお魚教室2018」　：7月8日
3)「フワフワ　クレヨンしんちゃん」　：8月11、12日
4)「室屋義秀トークショー」　：9月2日
5)「星の王子さまと　サン＝テグジュペリ展」　：2019年3月1日 ～ 4月26日
6)「ディノアライブ」　：3月24日

③ＹＳ－１１一般公開　：4月7日、4月8日、5月20日、10月27日、10月28日、11月14日
(6回／年、延べ参加者数　10,532人)

④格納庫一般公開　：4月7日、4月8日、10月27日、10月28日、11月14日
(5回／年、延べ参加者数　7,753人)

⑤「青少年のための科学の祭典」所沢大会　：11月14日（埼玉県民の日）
(延べ参加者数　4,668人)

⑷ 連携活動

①自治体・団体等との連携

埼玉県、所沢市をはじめとする周辺の自治体・団体・企業等との連携活動として、所沢市が主催する所沢航空記念公園を利用した「市民文化フェア」、「所沢市民フェスティバル」等への開催協力を行なうとともに、市立所沢図書館で開催されたパネル展示に対して、館所蔵の画像データを提供協力した。

②博物館連携組織及び博物館等との連携

埼玉県博物館連絡協議会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本ジャイアントスクリーン協会等に加盟し、連携活動や研修への参加、ならびに情報交換を行なった。

そのうち具体的な活動として、国立科学博物館産業技術史資料情報センターが運営する産業系博物館情報ウェブサイト「ヒットネット」のミニ企画展「日本の航空博物館」に他の航空博物館 3 館とともに参画協力した。

(5) 広報活動

所沢航空発祥記念館の存在をより多くの方に知っていただくことで、活動の活性・拡充と入館者増に結びつけるため、パブリシティを中心とした広報を実行した。

具体的には、ウェブページを活用した展示館及び大型映像館に係る案内及び情報発信に加え、特別展の開催情報や教育普及活動の開催案内など最新の情報をプレスリリース等を用いて的確に発信したほか、取材への積極的な対応を行なった。

特に開館25周年記念特別展「エアレース世界チャンピオン室屋義秀～極限からのメッセージ～」開催にあたっては、航空専門雑誌に広告掲出するとともに、実施テーマへの関心の深いと思われる航空専門学校や航空学関係の学部・学科を有する大学をポスター・チラシの配布先に加えた。

(6) 普及啓発活動

①飛行機工作教室、公開講座の開催

航空関連知識や情報の理解増進を目的として飛行機工作教室、公開講座等を開催した。

1)飛行機工作教室（室内機・ゴム動力機・折り紙等）	：	8 月 11、12 日
2)公開講座		
「大空を飛ぶ　～小型機で駆けた空～」	：	7 月 15 日
「大空の安全を守る！航空管制の役割」	：	9 月 23 日
「YS-11・1964 年の祭典秘話　ギリシャから炎を空輸せよ！」	：	10 月 20 日
「ターボプロップ旅客機の進化」	：	11 月 17 日

②友の会「キッズ・チャレンジ倶楽部」の開催

「科学する心」を育て「創る喜び」を体験してもらうことを目的とした、小学 3 年から 6 年生対象の一年制会員制組織「キッズ・チャレンジ倶楽部」を運営し、航空に係る科学と技術を中心に工作教室・実験教室・自然観察教室・航空関連施設見学会等の各種行事を開催した。

開催教室数　：　34 回／年、　延べ参加者数：　986 人

(7) ボランティア活動の充実

館の運営を支援するボランティアの活動の場として、飛行機工作教室、航空機の保守・メンテナンス、YS-11・格納庫の特別公開、常設展示の解説や展示解説ツアーの開催、近隣小学校等へのアウトリーチ等を開催した。

(8) その他

累計入館者 650 万人達成

2019 年 2 月 16 日に、開館（1993 年 4 月）以来 650 万人目の来館者を迎え、記念式典を開催した。

(9) 入館者状況

2018年度の入館者数、前年度との比較は以下の通り

	入館者数	うち大型映像館
2018年度（人）	194,567	35,752
2017年度（人）	181,979	34,983
前年度比	106.9%	102.2%

２．青森県立三沢航空科学館の運営　（青森県委託事業）

(1) 展示物の点検・補修・改善

展示物の異常や故障などを未然に防ぎ、正常な稼動と安全運転を確保するため、展示物の保守点検を年4回実施した。

(2) イベントの開催等

人の動きに合わせて、色とりどりの光や影のモチーフ、映像、音が変化する、特別展「光のラビリンス～Art in Wonderland」を7月7日から9月24日まで開催した。

Ⅲ．［公益目的事業３］　他館に対する活動支援事業

科学技術館の運営経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設に対して、それら施設の新規設置や更新、あるいは新たな「活動づくり」にあたってのコンセプト作りなどの支援を総合的に行った。

１．鳥取市博物館常設展示装置保守点検業務　（公益財団法人鳥取市文化財団委託事業）

鳥取市文化財団より鳥取市歴史博物館常設展示装置保守点検業務を受託し、常設展示装置の保守点検を年4回実施した。

２．プレアデス導入館に関する保守メンテナンス事業

以下の施設における保守メンテナンス事業を完了した。

(1) 日立シビックセンター「天球劇場」保守点検業務　(公益財団法人日立文化情報財団委託事業)

(2) 山梨県立科学館プラネタリウム保守点検業務　(公益財団法人山梨県青少年協会委託事業)

(3) プラネタリウムシステムソフトウエア保守（番組制作支援）　(川崎市委託事業)

(4) 岡三証券神楽洞夢保守点検業務　(株式会社岡三証券グループ委託事業)

(5) サイエンスヒルズこまつ３Ｄスタジオ保守点検業務　(小松市委託事業)

３．日立シビックセンター天球劇場映像生成PCシステム更新

日立シビックセンター内「天球劇場」の映像生成及びシステム制御を行っているコンピュータシステムの機器更新を実施した。

Ⅳ.［公益目的事業４］　科学技術系人材の育成事業

科学技術体験イベント、国際科学オリンピックなど、科学技術への興味関心を引き起こすレベルから専門家をめざすレベルまで、広範な活動を通して科学技術系人材の育成事業を実施した。

１．科学技術体験イベントの開催

⑴ 青少年のための科学の祭典 2018

青少年のための科学の祭典は、当財団の提唱により 1992 年に開始され、草の根的な理科実験のイベントとして、26 年の歴史を数え、全国各地で展開している。当年度は、中外製薬株式会社などの支援を得て、科学技術館における全国大会をはじめ、全国 73 会場（台風による中止 2 会場を除く）で、自主大会が開催された。参加者数は 315,261 人に及ぶ。

①青少年のための科学の祭典　全国大会　（科学技術館）

会期 7 月 28 日、29 日、入場者数　11,880 人、出展数 68(個人 30、企業団体 27、学生科学賞 7、放射線教育事業 4)。7 月 28 日は台風の接近により 15:00 で閉場した。

なお、2019 年度においては、国立青少年教育振興機構が実施する「こどもゆめ基金」からの助成が決定している。

②青少年のための科学の祭典　地方大会

自主大会として北海道から沖縄まで、73 会場で開催された。

⑵ 少年少女創造性育成事業　（公益財団法人市村清新技術財団委託事業）

第49回市村アイデア賞受賞者を対象とした表彰式、入選作品の展示を11月16日に科学技術館で行い、小中学生を対象とした複写機を題材としてその原理と分解を行うワークショップを、2018年12月に神埼市中央公民館（佐賀県神埼市）、2019年3月に科学技術館にて計2回開催した。

⑶ ボーイングＳＴＥＭイベントの開催　（ボーイング社助成事業）

①「ボーイング STEM プログラム in ジャパン」を開催

シアトル航空博物館の協力を得 STEM(Science,Technology, Engineerig and Mathmatics)教育に基づいた科学実験ショー・ワークショップを開催した。

9 月 27 日　：清水窪小学校（東京）
9 月 29 日　：科学技術館（東京）
10 月　2 日　：横芝小学校（千葉）
10 月　5 日　：すみれガ丘小学校（兵庫）
10 月　6 日　：中部国際空港セントレア（愛知）

②「航空宇宙 STEM ワークショップ～飛べ！跳べ！翔べ！」を開催

科学技術館独自の STEM 教育ワークショップを開催した。

9 月 30 日　：科学技術館

２．科学オリンピック国内大会・国際大会

⑴ 国際科学オリンピック

国際科学オリンピックは、大学入学前の生徒を対象にして、第２次大戦後、東欧でスタートした。現在では、高校生にとって、科学ではもっともチャレンジングな目標となり、世界各国において、国際科学オリンピックをめざした活動が展開されている。当財団では、生物学オリンピック業務を行った。

①生物学オリンピック業務

日本生物学オリンピック 2018 の開催

4月　1日～ 5月31日	参加申込受付（郵送とWeb）
7月15日	予選を全国約113会場で開催（参加者4,189名）
8月16日～19日	本選を東京で開催（予選上位者80名）
12月26日～28日	代表候補者冬期特別セミナー開催（代表候補者15名）

※代表選抜試験は2019年3月21日に科学技術館で開催。

②第29回国際生物学オリンピック（イラン大会）への日本代表派遣

イラン大会へ日本代表として派遣された4名は、銀メダル２、銅メダル２を獲得した。

4月　4日	イラン大会の日本代表4名と次点者2名を決定し、プレスリリースを実施した。
4月28日～30日	第2回特別教育を東邦大学で実施した。（2泊3日）
6月10日、11日	第3階特別教育を科学技術館で実施した。（1泊2日）
7月22日～31日	イラン大会開催（銀2、銅2、17位/71ヵ国・地域）

⑵ 平成30年度国際科学技術コンテスト支援

①第31回国際生物学オリンピック開催準備

2020年7月に日本の長崎国際大学で開催する第31回国際生物学オリンピックの準備として、運営体制の整備、資金調達のための募金活動、ＨＰ開設等を行い、当財団はこの事務処理を実施した。

３．教員のための理科実験指導育成講座開催（公益財団法人東京応化科学技術振興財団助成事業）

学校における教員の理科実験スキル向上を目的として、ベテラン教師による実践的な理科実験の極意を指導し、授業や社会教育活動に役立つ講習会を科学技術館「実験工房」で物理・化学・生物・地学の分野別に各2回開催した。（参加者：延べ136人）

なお、2019年度についても、助成を受けることが決定している。

Ⅴ．［公益目的事業５］　科学技術の普及啓発事業

科学技術映像祭、サイエンスフィルムカフェ、各種工作機器類・測定装置の整備、エネルギー・放射線等理解増進事業等、広範囲な科学技術の普及啓発事業を実施した。

１．科学技術映像祭

⑴ 第59回科学技術映像祭

①「自然・くらし部門」「研究技術開発部門」「教育・教養部門」の3部門に、37機関から54作品が出品され、内閣総理大臣賞に「奇跡の子どもたち　寝たきりの希少難病の患者と家族を10年間追った“感動のドキュメント”」(企画・製作：株式会社タキオンジャパン)、文部科学大臣賞3作品、部門優秀賞6作品、特別奨励賞2作品、ファーウェイ賞1作品、科学技術館館長賞1作品の表彰を決定した。

②各賞表彰式(4月20日)と入選作品上映会(4月19日、20日)を科学技術館サイエンスホールにおいて開催した。これらの入選作品は、全国の15科学館で上映会を行った。

⑵ 第60回科学技術映像祭

「自然・くらし部門」「研究技術開発部門」「教育・教養部門」の3部門に、24機関から42作品が出品され、内閣総理大臣賞に「からだの中の宇宙―超高精細映像が解き明かす―」(企画：ミクロコスモス製作委員会、製作：株式会社ヨネ・プロダクション)、文部科学大臣賞3作品、部門優秀賞6作品、特別奨励賞1作品、新技術振興渡辺記念会理事長賞1作品、科学技術館館長賞1作品の表彰を決定した。

２．放射線・エネルギー等に関する理解増進活動

⑴ 情報提供事業、出前授業の実施

中学校理科新学習指導要領による「放射線」教育を実施する教師を支援するために各種情報を提供する放射線教育支援Webサイト「らでぃ」を運用するとともに、教員研修や放射線出前授業等を実施した。

⑵ 文部科学省委託事業の実施

文部科学省の放射線に関する教職員セミナー及び出前授業実施事業を全国の小学校・中学校・高等学校等で165回開催し、10,659人が受講した。

⑶ エネルギー放射線教室の開催

「青少年のための科学の祭典」全国大会及び地方大会にエネルギー・放射線実験ブースを出展した。

⑷ 放射線教材コンテスト・発表会の開催

放射線教材コンテスト・発表会を開催し、最優秀賞1作品、優秀賞1作品、特別賞3作品の表彰を決定した。

Ⅵ．［公益目的事業６］　科学技術振興に関する調査研究事業

Ⅶ．［公益目的事業７］　科学技術の研究開発とその促進事業

科学の祭典の来場者調査、映像技術を活用した教育プログラムや展示の試作・試行など、事業評価の実施や新たな教育手法についての調査研究を行った。広報活動としては、広報誌「JSF Today」、科学技術館メールマガジン、Twitter等による情報発信を行った。

１．調査研究

⑴　「青少年のための科学の祭典・全国大会」来場者、出展者アンケート調査の実施

7月28日から29日まで「青少年のための科学の祭典」全国大会にて来場者調査を行った。

回答者数：子ども279人、大人236人

⑵　「映像と実物を組み合わせた科学技術教育の手法と効果に関する調査研究」（一般財団法人新技術振興渡辺記念会科学技術調査研究事業）の実施

財団・科学技術館ならではの手法の確立を目指し、映像技術を使った教育プログラムと展示を開催し、その効果を測った。

２．広報活動

科学館、博物館等の来館者調査、教育プログラムの試作・試行など、事業評価の実施及び事業の企画立案等に向けて調査研究を行った。広報活動としては、広報誌「JSF Today」、科学技術館メールマガジン等を発行した。

⑴　プレスリリース

7月　「青少年のための科学の祭典」2018全国大会開催。

科学技術館新実験プログラム「光と色のじっけん室」公開。

9月　子どもたちが航空と宇宙への関心を深める「ボーイングSTEMプログラム in ジャパン」

12月「第60回科学技術映像祭」参加作品の募集開始。

3月「第60回科学技術映像祭」入選作品の決定について。

⑵　財団広報誌「JSF　Today」の発行

№148「創造性を育てるメソッド」(2018年4月発行)

№149「展示を守る力、創る情熱」(2018年7月発行)

№150「ロボコンざんまい」(2018年10月発行)

№151「『STEM教育』の潮流」(2019年1月発行)

発行部数　各1,000部

⑶「科学技術館 メールマガジン」の発行

673号(4月4日)から722号(3月27日)　配信数11,079通(3月27日現在)

⑷　twitterによる情報発信

フォロワー数2,795人(3月25日現在)

Ⅷ．［収益事業１］　情報システムの設計開発と運用サービス事業

データベース技術、ネットワーク技術、解析・シミュレーション技術、インターネット技術などを基に、官公庁及び関連機関をはじめとして、民間企業や通信教育団体等から、情報システムの設計開発業務や運用サービス業務を受託して実施した。この事業は、当財団の収益事業として財政基盤を支えることをめざしている。実施した主な業務は次のとおりである。

１．情報システムの設計開発

⑴ 会計検査院

調査表管理システム運用保守業務、総合検索システム運用保守業務

⑵ 学校法人産業能率大学

標準システム開発、案件・公開システム開発、学生向け Web サイト開発、受講管理システム開発

⑶ 株式会社ニッセイコム

日本芸術文化振興会向けシステム開発・保守

⑷ 株式会社イセトー

DCPS ツール申込システム企業型開発、三井住友海上あいおい生命　家族 Eye 開発、J-PEC ツール申込個人型 SK 改修

⑸ 株式会社片平エンジニアリング

片平　ＰＡＳＳシステム開発

⑹国立研究開発法人科学技術振興機構

産学官ジャーナルアップロード支援

２．情報システムの運用サービス

⑴ 中外製薬株式会社、オムロン株式会社

LMS(Learning Management System)の運用業務

⑵ 学校法人産業能率大学、職業訓練法人日本技能教育開発センター

通信教育 Web 受講申込システムの運用業務

⑶ 一般社団法人電子情報技術産業協会

統計システムのデータ登録・運用業務

⑷ 学校法人産業能率大学

会計決算システム運用業務

⑸ 通信教育団体

成績報告支援サービス

⑹ 株式会社イセトー

金融系 Web システム運用業務

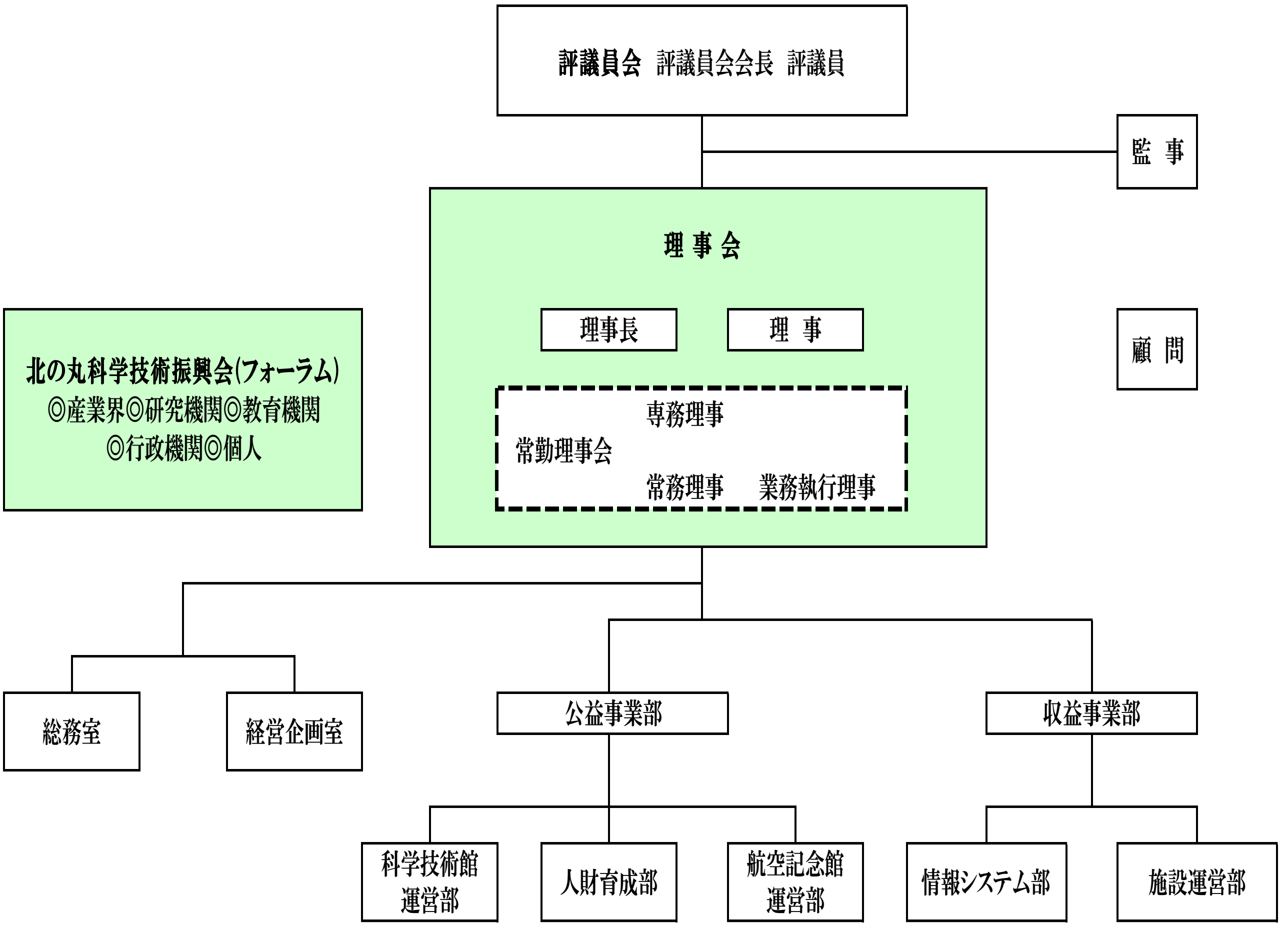
Ⅸ．［収益事業２］　科学技術館施設の利用促進事業

当財団では、科学技術館の施設の一部を貸し出している。1 階の展示・イベントホールは、各種の販売会、技術展、製品発表会、イベント等、地階のサイエンスホールは、土日はアニメ等の各種イベント、平日は講演会、セミナー、研修会等に貸し出している。また、5 階、6 階の会議室も貸し出している。この事業は、収益事業として経営しており、公益目的事業の継続実施の要となる重要な事業である。

今年度は、昨年度に引き続き各施設を利用していただく顧客ニーズを把握し、満足度を向上させる取組みを行うことにより、継続的需要、更には新規需要に結び付けるように活動した。

【総合活動】

１． 当財団の組織　(2019 年 3 月 31 日現在)



２． 代表理事及び業務執行理事の業務分担　(2019 年 3 月 31 日現在)

氏名	業務執行理事	役職	業務分担
榊原　定征	代表理事	理事長	法人代表
吉田　忍	代表理事	専務理事	法人代表 航空記念館運営部担当(兼)、 所沢航空発祥記念館館長
植木　勉	業務執行理事	常務理事	科学技術館運営部担当(兼)、 人財育成部担当(兼)、 人財育成部部長
新元　一弘	業務執行理事	理事	総務室担当(兼)、 経営企画室担当(兼)、 情報システム部担当(兼)、 施設運営部担当(兼)、 建設工事の請負に係る業務担当(兼)、 情報システム部部長

３．会議の開催

⑴ 定時評議員会及び臨時評議員会の開催

①第 8 回定時評議員会　2018 年 6 月 28 日

議案 1. 2017 年度の決算書類の承認の件

議案 2. 評議員選任の件

議案 3. 理事選任の件

②第 9 回臨時評議員会　2019 年 3 月 15 日

議案無し、報告のみ

○上記の評議員会に付議された議案は、いずれも承認可決されました。

⑵ 通常理事会、臨時理事会及び書面理事会の開催

①第 15 回通常理事会　2018 年 6 月 4 日

議案 1.　2017 年度の事業報告及び決算書類の承認の件

議案 2.　定時評議員会の招集の件

議案 3.　理事会提案として評議員会に提案する評議員候補者の決定の件

議案 4.　理事会提案として評議員会に提案する理事候補者の決定の件

議案 5.　2018 年度補助・助成事業実施に関する件

②第 8 回臨時理事会　2018 年 6 月 28 日

議案無し、報告のみ

③第 13 回書面理事会　2019 年 2 月 7 日

議案１.臨時評議員会の招集について

議案２. 理事会提案として評議員会に提案する評議員候補者の決定について

⑤第 16 回通常理事会　2019 年 3 月 15 日

議案 1. 2019 年度事業計画及び予算書等の承認の件

議案 2. 重要な使用人の選任について

議案 3. 財産管理運用規則の一部変更に係る承認の件

○上記の理事会(書面理事会を含む)に付議された議案は、いずれも承認可決されました。

⑶ 顧問会議の開催

開催なし

⑷ 常勤理事会の開催

定款第 41 条第 2 項及び常勤理事会運営規則に基づいて、毎月 2 回(原則)、常勤の理事 3 名による常勤理事会を開催して、理事会決定による事業計画に従い、重要事項の審議、決定を行い、また各事業の報告により情報の共有を図っている。会議の資料及び結果については、電子メールにより、理事及び監事の全員に送付している。

４．その他

⑴ 経営課題の推進

⑵ 機構改革の見直しと推進

⑶ 事業予算および要員予算編成方針策定

⑷ 四半期毎の業績検討会の実施

⑸ 事業損益改善の推進

⑹ 科学技術館老朽化対策の更新

⑺ 科学技術館耐震化第１期工事の実施

－　以上　－